



実用新案登録願

昭和47年10月2日

特許庁長官

三宅幸夫 殿

1. 考案の名称 ^{ノリカタ} 無度変速装置

2. 考案者

^{フリガナ}
住所
^{フリガナ}
氏名

実用新案登録出願人に同じ

3. 実用新案登録出願人

^{フリガナ}
住所
^{フリガナ}
氏名
(国籍)

^{フジシカミナベ}
静岡県富士市上田端1539番地
石 ^{イシカワ} 川 ^{シン} 新

4. 代理人 〒940

^{フリガナ}
住所 新潟県長岡市城内町3丁目5番地の19

氏名 (6001) 弁護士 吉井 昭 栄

5. 添付書類の目録

- | | |
|----------|------|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| (4) 委任状 | 1 通) |

47 114457

1 考案の名称 無段変速装置

2 実用新案登録請求の範囲

ケースに入力軸と出力軸とを平行に軸架し、この入力軸と出力軸に3つの傘型輪を両者の間に間隙を置いて反対向きに附設し、この3つの傘型輪の間に傾杆を挿入し、この傾杆を廻動自在にケースに軸架し、一方の突出端にハンドルを附設し、傾杆にコマを螺着し、このコマに前記3つの傘型輪に夫々圧接している摩擦輪を同軸自在に装着し、入力軸側の傘型輪の径小先端部を切離し、この径小先端部をベアリングにより入力軸に対してフリーに設けてなる無段変速装置。

3 考案の詳細な説明

本考案は零からスムーズに発進出来るクラッチ不

要の無段変速装置に係るものにして、添削図面を参照してその構成を明述すると次の通りである。

ケース(1)に入力軸(2)と出力軸(3)とを平行に軸架する。

この入力軸(2)と出力軸(3)に、3つの傘型歯(4)(5)を両者の間に間隙を置いて反対向きに啮設する。

この3つの傘型歯(4)(5)の間に螺杆(6)を挿入し、この螺杆(6)を廻動自在にケース(1)に軸架し、一方の突出端にハンドル(7)を啮設する。

螺杆(6)にコマ(8)を螺着し、このコマ(8)に前記3つの傘型歯(4)(5)に夫々圧着している摩擦輪(9)を回転自在に接着する。

入力軸(2)側の傘型歯(4)の径小先端部(10)を切離し、この径小先端部(10)をベアリング軸により入力軸(2)に対してフリーに回転し得る様に設ける。

(〃)

図中(2)は入出力軸の軸受部である。

本考案は上述の様に構成したから入力軸(2)が回転すると傘型輪(4)が回転する。この回転はコマ(8)に対してフリーに回転する摩擦輪(9)を介して傘型輪(5)に伝えられ出力軸(8)を回転せしめる。

この場合ハンドル(7)を廻動して蝶杆(6)を廻動せしめると摩擦輪(9)が移動する。

従つてこの摩擦輪(9)が図中左側に位置する時出力軸(8)は減速されることになり逆に右側に移動すると増速されることになる。

本考案はかかる無段変速装置に於て入力軸(2)側の傘型輪(4)の径小先端部(10)を本体と切離し、この径小先端部(10)にベアリング(11)を内装して入力軸(2)に対しフリーにしたからハンドル(7)を廻動して摩擦輪(9)を径小先端部(10)の所に移動せしめると入力軸

(2) の回転は入力軸(2)に対してフリーの徑外先導部(4)で中断され、摩擦輪(9)を回転せしめないなら入力軸(2)の回転は出力軸(8)側へ伝達されないことになる。

即ちクラッチの働きをする。

別にクラッチを投げる必要がないことになる。

その状態から少しハンドル(7)を廻して摩擦輪(9)を移動せしめると少しづつ回転は出力軸(8)側へ伝えられることになり所需零からの発進が極めてスムーズに行われることになる。

本考案はかように動力を切離するクラッチを別に投げる必要のないクラッチ付きの兩かも零からの発進をスムーズに行う秀れた無段変速装置となる。

4 図面の簡単な説明

図は本発明の一部を切欠る要部の平面図である。

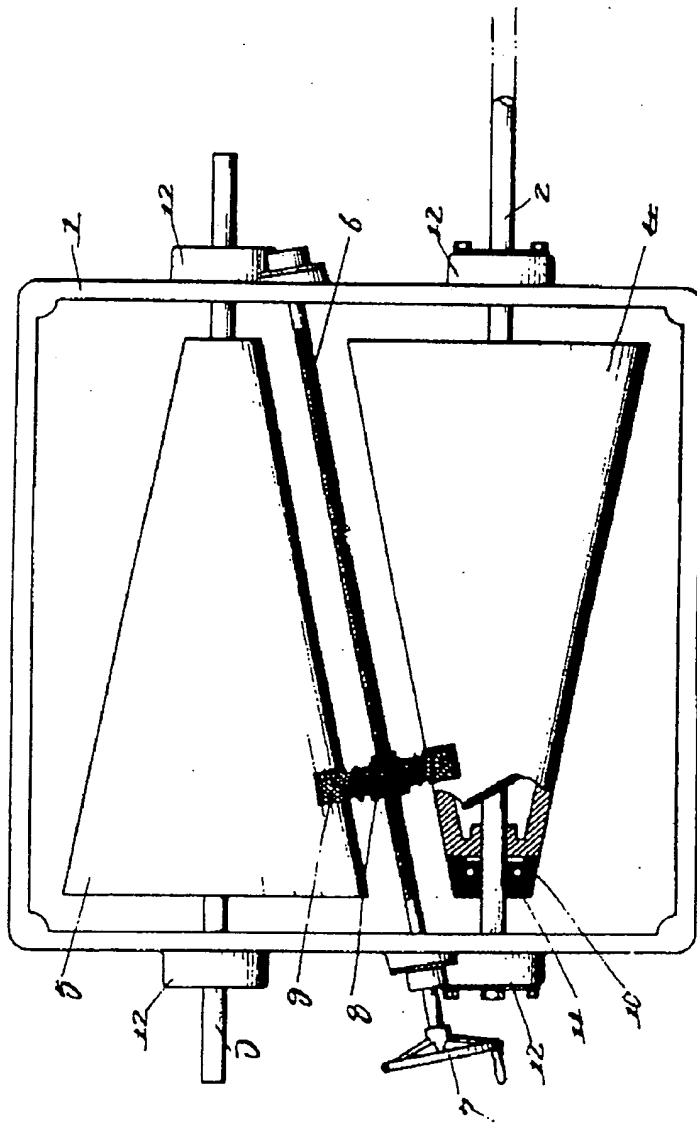
(4)

- (1)・・・ケース、(2)・・・人力軸、(3)・・・出力軸、(4)
(5)・・・傘型軸、(6)・・・螺杆、(7)・・・ハンドル、(8)
・・・コマ、(9)・・・摩擦軸。

昭和 4 7 年 1 0 月 2 日

出 願 人 石 川 新

代 理 人 吉 井 昭 榮



出願人 新
代理人 石川 昭策
吉井 昭策

70378